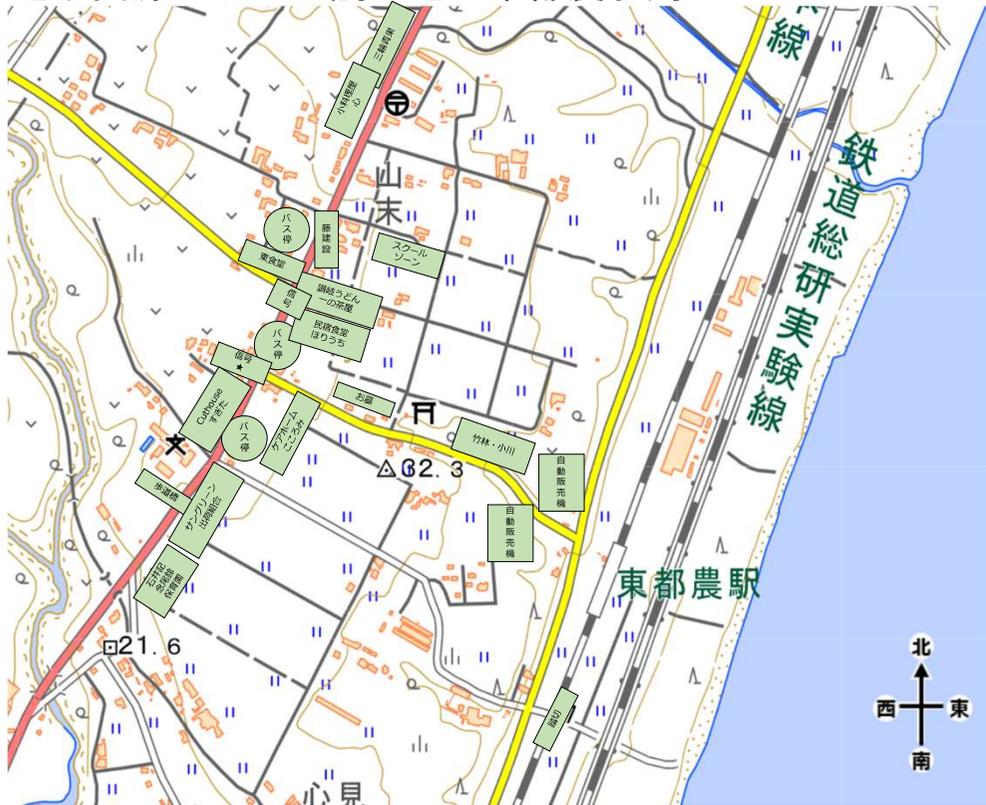


地域資源マップ 調査地：東都農駅周辺



①学校



東都農に学校は東都農小学校しかない。正式名称は、都農町立都農東小学校、国道10号線沿いに都農東小学校、西南へ3.3kmの所に内野々分校がある。内野々分校の児童は1年生から4年生までで校で過ごし、5年生になると都農東小学校に在籍する。都農東小学校は1学年1学級、分校は1・2年、3・4年の複式学級で構成されている。全校生徒は約80名であり、男子よりも女子の人数が多い。地域住民の方によるとおよそ50年前は500名ほど児童がいたという。具体的な数字を聞くことができたため少子化という課題を感じることができた。しかし調査中に地域の子どもたちが元気に外で遊んでいる姿を見ることができた。東都農駅前の歩道を渡った先の電柱には横断旗入れが設置されていたり、ビニールハウスの間に「ここはスクールゾーン、飛び出し注意」の看板が設置されていたりして各地が通学路になっていることがわかった。歩道橋が小学校前に設置されているため小学生の登下校時の事故の危険性は低いと考えられる。参考：トップページ「都農町立都農東小学校 (miyazaki-c.ed.jp)」

②生態



調査した範囲内の様々な場所で野イチゴを見かけた。班員の経験やインターネットでの調査からヘビイチゴと呼ばれる野イチゴの種類だと考えられる。甘いといわれる野イチゴもあつたが見かけても数が少なく野生の動物に食べられていたと予測される。一方ヘビイチゴは食べるには甘みも酸味も香りもないため動物が食べている痕跡もなく実がなった状態のものが多かった。ヘビイチゴは加工してジャムやジュースにしてもおいしくならないため実は減らずになり続けることになる。10号線沿いのビニールハウスの横にはコスモスが咲いていた。コスモスは種類にもよるが7月から10月ごろが見ごろで早くても6月ごろに咲くといわれている。調査日は5月上旬であったが宮崎県特有の温暖な気候が影響していると考えられる。調査前日に雨が降っており土の地面がぬかるんでおり、2本指の動物の足跡を観測した。猫も数匹見かけた。住宅付近にみたため野生が飼育されているかは定かではない。しかし地域住民の方々に聞いたらそうであった。山の中や道路沿いには竹が生育していた。かなり成長しており折れてしまっているものもあった。

③天満宮



各地区にある菅原道真公を祀る天満宮で林にかまれていた。この天満宮は都農町内の上名貴神社をはじめとし各地に点在している。敷地内には石製らしき鳥居もたっていたがかなり年季が経っていた。また地図上で神社の地図記号が描かれていたが道路に面しておらず田畑に囲まれていたためそこには場所がわからなかった。ベンチも設置されていたが鉄製ではなかったため老朽化が気になる。社自体もさびれており屋根はコゲで覆われていた。社の横には車が一台通れるぐらいのスペースが左右にあり車が通った跡も残っていた。付近に駐車スペースはなかったため、この天満宮に駐車されることが多いと推測できる。

④道



国道10号線では大型車両が多く、道路の横断が容易ではないように感じた。一方で歩道は自転車通行可の標識があり、歩道は広かった。信号付きの横断歩道は調査範囲に2カ所あり、★の信号は半応応式信号であった。このことから10号線の交通量が多い、この横断歩道は歩行者が頻りに利用するという2つが推測できる。線路沿いの道では片側にしかガードレールがなく、人が歩くことが想定されていない道になっている。また県北と県南を往復する際に利用される道であるため交通量も少なくはない。

⑥水路・井戸・山林



今回調査した場所全体に水路があった。カニが水路からあがってきていたため水が綺麗なと推測できる。水路は林の中や道路沿いなど各地につくられていた。何軒かの家の近辺に今は使われていないような井戸も設置されていた。井戸が使われることは今の時代ではほほほないと思うので撤去されていない井戸は珍しいと思った。小川が竹林のそばにあったり、10号線から外れると山道につながっていた。道中は人工的に作られた水路と樹木に囲まれていた。このような場所は空気が澄んでおり涼しかった。また山道はアスファルトの道もあったのだが一部はひびが入っていた。

⑤店



10号線沿いには何軒か食事ができそうな店と青果問屋があった。今回の実習ではその中の「うどん屋 一の茶屋」で昼食をとらせていただいた。来店した客と親しげに店員さんが話している様子から地域に根付いた店である印象をうけた。青果問屋は名称：三輪青果。周囲にある果樹園から集まる新鮮な果物や野菜が豊富にある。特に柑橘系の種類が豊富。並んでいる店の中には営業しているか不明である店もあった。しかしスーパーやコンビニは近くにはなく地域住民は買い物をする際には少し遠くに行く必要がある点は課題である。

⑦農業



東都農町では農業と園芸が盛んに行われている。そのため、至る所でビニールハウスを見かけた。特にトマトが有名であり、隣の川南町の道の駅で30種類以上のトマトを販売している。他にもトウモロコシやニラなどが多く栽培されている。また田んぼが多く、お米の苗が植えられていた。田んぼの付近にはJA尾鈴稲作部会が早期水稲情報の看板を設置していた。昔は畜産も行われていたそうだが、現在畜産をしている家は一軒だけとなっている。

⑧郵便局



名称：東都農郵便局。小さい郵便局ではあるが、近辺の郵便局はここのか確認できなかったため東都農に住んでいる住民にとって欠かせない場所である。中に入ることはできなかったが外から確認したところ郵便局内は多くの人で混雑していた。また10時頃この近辺を調査していたところかなり大きな音で音楽が流れていた。この郵便局から流れていたかは不明であるが近くに音楽を流すような施設は見受けられなかったため郵便局から流れていると推測した。

まとめ

今回の調査は5月14日(土)に都農町、東都農駅付近で行った。当日の天候は晴れ一時雨と不安定であった。天候が影響しているかは明確ではないが調査時には歩行者を見かけることが少なかった。しかしその中でも、まちの細道や道の駅を走る子供、町工場で働く親世代、畑仕事を行っている老年代のように、様々な年齢層の地域住民と遭遇した。東都農駅周辺は田畑が広がっており、住宅は田畑を管理している家庭が生活しているように感じた。近辺にはコンビニエンスストアやスーパーなどを見かけなかった。自分の管理している田畑で採取した食材を使用しているとしても生活必需品の調達に不便はないかと考えた。地域住民の方によると以前に比べ作物の種類や畜産数が大きく減少しているという。やはりこの地域でも農業人口は減少しているらしい。それだけでなく、東都農小学校の生徒数も大きく減少しており少子化も進んでいるという。東都農は海に近い地域ではあるが住宅の多くは東都農駅の西にある坂を上った先にあつたため、自然災害が起きた際の避難に多少の余裕をもつことはできずとも思う。しかし、マップを見てわかるように近くに中学校や高校はない。そのため高齢者や子供たちの避難を支えることのできる若者は少ないのではないかと考えた。そのため少子化はこの地域で特に注目すべき課題であると考えた。一方で道の駅で販売したり、今回の実習でトマトを頂いた学生がいたように野菜などの農業資源は豊富である。各地に張り巡らされていた水路では綺麗な水が流れており、野菜や米を作るには適している。また東都農の土は水はけもよく農業に適している。全国的に第一次産業の就労人口が減少しているが適した土地をうまく活用することができれば地域をアピールすることも可能だと考える。

作成：Aグループ(3班)